

陰陽師 安倍晴明のふるさと・阿倍野を往く

～上町台地のロマンを求めて～

大阪市内を縦断する上町台地の西の崖や、弥生時代の集落があった阿倍野筋遺跡など、太古の昔から続く阿倍野の歴史に触れるまち歩き。中世には聖地巡礼・熊野街道の舞台となって、ここから天才陰陽師・安倍晴明が生まれました。安倍晴明神社では、いまでも晴明を慕う若い女性の参拝がたえません。

① 大阪市立阿倍野防災センター

「震度7地震体験コーナー」では、阪神・淡路大震災や予測される東南海地震の揺れなどを体験できます。時間があれば地震災害コース(30分～)も体験できます(要予約)。一度は体験して防災についての知識と意識を高めましょう。※入館料:無料 開館時間:10時～18時 休館日:水曜日・毎月最終木曜日(祝日の場合はその翌日)・年末年始(12月28日～1月4日) 問合せ先:06-6643-1031

② 阿倍野区民センター

一階展示コーナーには、阿倍野筋遺跡や阿倍寺跡の出土品が展示されています。漁をする時に網につけた土錘やイダコ壺、漁具などの出土から、古代にはこのあたりが海に近かったことがわかります。また住居跡の写真や土器から、古墳時代に集落があったことを知ることができます。

③ 吉田兼好遺跡

『徒然草』の作者として有名な吉田兼好(1283～1350?)は、阿倍野に質素な庵を建てて住んだ時期がありました。阿倍野を訪れたのは、南北朝の戦いで21歳の若さで戦死した北畠顕家(1318～1338)の霊を慰めるためといわれています。丸山古墳のふもとに住み、縄やむしろを織って生計を立てながら自由な日々を送っていたと言われ、藁を打った石が残されています。兼好は顕家の父である北畠親房(1293～1354)の『神皇正統記』(南朝の正統性を述べた歴史書)にも関わっています。

⑤ 伊東静雄文学碑

伊東静雄(1906～1953)は長崎県諫早市生まれの詩人です。京都大学卒業後、旧住吉中学校に国語の教師として赴任しました。以来、戦後まで20数年、教師と詩作の道を大阪で歩みます。このあたりは青春時代の一時期、丸山地区に下宿したことがあり、好んで散策したという縁の地で、昭和59年(1984)、文学碑が建立されました。

⑦ 安倍晴明神社

平安時代に陰陽師として活躍した安倍晴明(921～1005)の生誕伝承地であり、寛弘4年(1007)にその死を惜しんだ花山上皇の命により創建されたと伝えられています。『今昔物語』等によると、安倍晴明は式神を使役し、占いは神の如しと伝えられ、その特別な能力から、母親は信太の森(和泉市)の白狐とする葛之葉伝説が残されています。

⑥ 松虫塚

昔、このあたりは見渡す限りの原野で、秋には虫の声が満ち、特に松虫(今の鈴虫)の澄んだ音色が美しく、名所として知られていました。古書『芦分船』によると、後鳥羽上皇(1180～1239)が寵愛した白拍子の松虫、鈴虫姉妹が隠れ住んだといった伝説などが残されています。道路計画で「松虫塚」の石碑以外は撤去し、樹齢800年といわれるエノキの神木も伐採される予定でしたが、住民の熱心な保存運動で残され、今も大切に守られています。

⑧ 阿倍王子神社

「あべの」の地名の由来となった安倍一族の氏神社で、一説には仁徳天皇のご創建と伝えられています。平安時代に熊野信仰が盛んとなり、熊野街道が整備されると、紀州熊野大社の末社、熊野九十九王子の第二王子社となり、現在では大阪府下唯一の旧地現存王子社です。境内には熊野神の神遣いである八咫鳥(やたがらす)の銅像が祀られており、願い事をすれば熊野三山まで届けてくださるそうです。

⑨ 阿部野神社

延元3年(1338)、後醍醐天皇に仕えた北畠顕家が足利尊氏軍の高師直と激しく戦った古戦場の現在地に明治15年(1882)に創建され、同23年(1890)、別格官幣社に列せられました。文武両道に優れた顕家が、最後の出陣にあたって天皇に届けた上奏文は、政治を憂え、国の平和と民百姓の幸せを望む内容で高く評価され、後年、父の親房が『神皇正統記』を書きかけになったと言われています。

